

## 野川の水量がふえた！

10月9日の台風22号,20日の23号,秋雨前線の影響で野川は,大幅に増水しました。これは,1991(平成3)年の9・10月の総雨量が877mmだったとき以来の川の流れです。こんなにとつとつと流れる野川をみるのは,何と久しぶりのことでしょう。今夏の渇水で,ヒビだらけの川底をみせていたあの野川の様相とは大違いです。カニ山でも,湧水が広場のあちこちから湧き出ていました。



8月の大町橋(品川道)  
上流の様子



現在の大町橋  
上流の様子

### 野川クリーン作戦

6中地域教育懇談会が主催する野川クリーン作戦が今年も実施されます。上流部(御塔坂橋~馬橋)と下流部(馬橋~野川大橋)での清掃活動に是非,ご参加ください。

日時: 12月4日(土) 10:00~11:30  
(少雨決行,雨天順延)

集合場所: 上流部 - 中耕地橋,大橋,中嶋橋  
下流部 - 調和小,国領小,第六中

問合せ: 環境保全課(☎81-7087)

## 調布の自然 生き物編 その8

### 地球温暖化と虫たち ウスバキトンボとウラナミシジミ

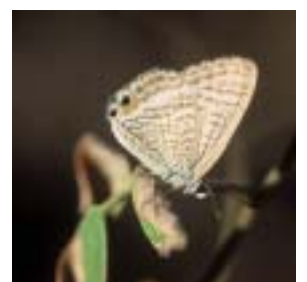
夏の暑さはどこへやら,秋ももうたけなわである。多摩川河川敷では澄んだ空にトンボが浮かんでいる。一見赤とんぼとも見紛うが,その仲間ではなくて,ウスバキトンボという。足元の草むらには細波模様の羽をした小さな蝶,ウラナミシジミもいる。彼らは冬の調布にはいない。寒さに耐えられないのだ。毎年夏に南からやってきて,繁殖を繰り返して北へ北へと分布を拡げ,秋には東北地方や北海道にまで到達するが,冬には寒さで死んでしまう。しかし翌年また南に生き残ったものの子孫がやってくるのだ。もし,地球が温暖化したら,調布でも冬越しできるようになるだろう。でもその頃は,今年のような酷暑の夏が常態化しているかもしれない。やっぱり冬寒くても,夏の暑さはホドホドがいい。

先ごろロシアが京都議定書締結を表明した。いよいよ温暖化対策が本格化する。私たちも小まめに電気を消すとか車のアイドリングをしないなど,日常生活をいまいちど見直そう。

(山室)



透き通った羽の  
ウスバキトンボ



ウラナミシジミ

# 入間・樹林の会

トネアザミ

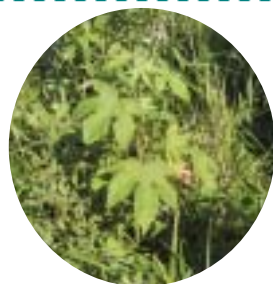


10月17日(日)は久しぶりの秋晴れの中、根本さんを講師に方形柵調査とミニ講座、11月の児童館との交流事業にむけ保全作業を行いました。方形柵調査は、夏草などが姿を消し、全体に種数が減少していますが、陽があたっている柵は逆に増加しています。根本さんに、3番柵のシュロや椿、5番柵のマテバシイが大きく成長し、ほかの植物に影響を与えているので今後どうするのか、チヂミザサが覆いはじめているところでの今後の取り扱い、方形柵調査以外の植物調査についてなどのアドバイスを受けました。については、刈りとってもよいがそのまま木が生えている状態であるの植生がどう変化するかみる、チヂミザサは他の植物を排除しないと思えるのでそのままにしてもよいのでは、どんな植物が生えているのかカテゴリーごとに記録してはなどの参考意見を伺いました。どのようにするか今後話し合いたいと思います。咲いている花は、トネアザミ、ミスヒキ、ギンミスヒキ、ヤツデなどと4種類に減っています。プチ違いシリーズ3では、イイギリとアカメガシワ、ヤブガラシとアマチャズルの違いを、復習でエノキとムクノキを行いました。



アカメガシワとイイギリ

鳥の糞で増える植物(マンリョウ・イイギリ・シロダモなど)が増え続けているので、今後どのように対応するか今から考えておいたらどうかというアドバイスも受けました。業者に伐採してもらった木の確認もしました。来月は、西側樹林地の保全作業と落ち葉だめの設置などを検討します。(あべ)



## 環境モニター

10/2(土) 晴れ  
AM 多摩川土手植物調査  
PM ガイドウォーク下見  
参加者 8名(多摩川センター及び職員含)

10月の調査日は連日雨の降る中のうれしい晴天に恵まれて3ヶ月ぶりに土手側の調査が行われた。今年度の目標を明確にしたことで調査に向ける気持ちもより一層熱の入ったものとなるようだ。回数を重ねる毎に植物の種類はもとより、亜種についての見方も変わって来たようで、常にこの種の亜種にはどんなものがあるのかが自然と話題になるようになった。7月に先生に教えていただいた、カタバエノコロ(図鑑には未掲載)の採取をしたり、コツブキンエノコロとキンエノコロ、アキノエノコログサの小穂の違いが話題になりそれぞれの違いを観察することができた。また、オガルカヤの小穂を観察できるのは今回が初めてで、いまままでに何度も見てきたその葉の正体は穂がでてみないと種が判別できないことも多い。

このように今月は、前回までには発見できなかった多くの種を確認し充実した結果が得られたと思う。植物以外にもヒメアカタテハ、モンキチョウ(メス)、キチョウ、モンシロチョウ他多くの蝶や虫にも出会っている。そして、ヘラオオバコやメマツヨイグサは既に口ゼットを作っていて着々と冬への支度が始まっていることを知る。来月さらに冬への準備が進んだ状態の植物達に会うのが楽しみである。(飯田)

10/23(土) 晴れ  
AM10~12  
ガイドウォーク  
参加者 10+8名



600年程以前からこの地に暮らし、かつては名主だったという吉田邸。大正中期に越してきた折り建てられた家を今でも大切に使用している石井邸。又戦後上野から移ってきた常楽院。どれも大変歴史の重みを感じられる所でした。今回はそれぞれ直にご主人の説明を聞かせていただいたり、お部屋まであがらせていただくなど自身の濃い見学になったと思います。コース設定の距離と時間は良かったのですが、説明の音が聞き取りにくいのはまたもや課題となりました。

参加者の感想も好評で又参加したいという方がほとんどでした。

吉田邸の軒下



# 雑木林塾 第1回講座

10 / 16 (土) 曇り 佐須いこいの家 10:00 ~ 参加者 12名+4名  
AM 講義 (市内の樹林の変遷) 講師 小豆畑  
PM 佐須4丁目から農業高校近辺まで見学



湧き水で沼地のようなになったカニ山自然広場

初めての雑木林塾講座、午前中は小豆畑課長より調布の樹林の変遷という少し難しい講義でしたが調布の地形や樹林の利用と歴史と現状や環境問題とのからみなど教えていただきました。とにかく初めてのことで専門用語などにとまどいもありました。午後は深大寺の谷戸を散策しながら佐須用水のことカニ山の湧水や地形など話され木や植物の名前を教えてくださいました。予定時間を大幅に過ぎてても全員熱心に耳をかたむけてい



佐須用水の見学

ました。その中でも私にとって嬉しかったのは樹齢300年のカゴの木を見たりスタジイを拾って食べたこと。ムクの実が食べられることを知ったのも初めてで、新鮮で実に楽しいときでした。今まで緑を守ることは机上の言葉でしかなかった自分を反省。しかしながら何ができるかと問われると今はまだおぼつかないが、今後さらにこの講座で深く勉強させていただきたいと思っています。次回が楽しみになりました。(木村)

## ちょうふ DE 田んぼ日記

その 17

### 「稲穂の乾く間もなし」

今年は台風 18 号を始め、22、23 号が関東に上陸し、今度は 24 号とひっきりなしにやってきます。おかげで、10 月 2 日に「はざ架け」した稲穂も、ちゃんと乾燥する前に、立て続けに雨に降られ、わらがぐっしょりとぬれたままです。ここで育てた稲のわらはは、毎年門松の材料となっていたのですが、今年はちょっと難しいかもしれません。



増水する野川

前回の台風 22 号の時は、急きょ、はざの支柱を補強することになりました。大雨で、野川は川岸まで増水しました。台風が通過した伊豆や横浜などの大災害を報道で見ると、被害に合われた方々には恐縮ですが、調布が直撃されなかったのは本当に幸運だったと感じます(ほんの数十 km の違いです!)

10 月 24 日は脱穀の予定。それまでにうまく乾燥していると良いのですが、これもお天気次第。つくづく農業は自然の大きな営みに委ねられていることを思い知らされます。

余談ですが、前回の「人間・樹林の会」の便りに、キノコの話がありました。自分も昔、よくきのこ狩りに行ったので、知っているキノコをカニ山で見つけました。また偶然、もと農業高校の小池先生にお会いして、食べられるキノコを教えてくださいました。それらをまとめておりますので今度レポートします(今がキノコ狩りのシーズンですので、早く知りたい方はご連絡ください)。(たんぼの学校 こんどう)

## リレーエッセイ (保全課職員担当)

温暖化対策と ISO 14001 の事務を担当している桑名です。環境保全課に異動して 2 年半になりました。

地球温暖化は、すでに異常気象(例えば、今年の異常気象のことを考えると、これが恒常化するようなものですから大変な問題であるわけです。)などによって私たちの生活にも影響をもたらしていますが、今後、温暖化による砂漠化の進展や氷原・氷床の減少などの直接的な影響のほか、食糧生産、生物種の減少などにも一層深刻な影響がでて、さらに、こうした影響の相乗効果により、将来、予想もつかないような異常事態が起こる可能性もあるといわれています。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)によれば、温暖化はまぎれもなく人類の活動によるものだと結論付けています。

温暖化の対策をしなくてはならない現世代としては、それほどその脅威を身近に感じる事がなかったことから、この問題に対する認識も若干希薄で、早期対策の実現にもやや難がありました。しかし、来春には京都議定書も発効することになります。

私たちに取り組める温暖化対策は、まずは省エネルギーであります。なるべくモノやエネルギーの使う量を減らす工夫や努力をすることが肝要です。

# イベント情報

## 環境モニター

日時：11月6日(土) 9:30～12:30

場所：多摩川自然広場

内容：植物調査

持ち物：ルーペ、ビニール袋、スコップ

## 人間・樹林の会

日時：11月13日(土) 10:00～12:00

場所：人間地域福祉センター

内容：東部児童館との交流会

持ち物：軍手・ルーペ、ビニール袋、筆記用具ほか

## 人間・樹林の会

日時：11月21日(日) 9:30～12:30

場所：人間地域福祉センター

内容：管理作業等

持ち物：軍手、ナタ、カマ、ほか

## 22世紀の森・神代の植樹祭

11月21日(日) 10時～12時

100年後の都市森を目指して始めた森づくり。今年で4年目になりますが、今回も植樹の作業があります。次世代へ渡す景色を楽しみに、自分の手で苗を植えてみませんか。焼きイモや豚汁を食べたり、クズの蔓でカゴを編んだり楽しいイベントもあります。ぜひお出かけください。当日受付です。

場所 深大寺五差路 西側

(植物園臨時駐車場東隣)



## 雑木林塾

日時：11月13日(土) 9:30～12:00

場所：たづくり6階601会議室

内容：樹林の植生調査・フィールドから調査の手法を学ぶ

持ち物：筆記用具

10月の多摩川河原

何故か1mほどになったワタの木を発見。本来はインドなど暑い国のもの。これも夏の猛暑のせいでしょうか。

## ちょうふ環境市民懇談会メーリングリストに参加しませんか？

ちょうふ環境市民懇談会では、多くの方と日常的に意見交換を行うために、メーリングリストを運営しています。参加希望の方は下記アドレスにご連絡ください。問合せ・申込み：(尾辻)

[kp5y-otj@asahi-net.or.jp](mailto:kp5y-otj@asahi-net.or.jp)

## 環境市民懇談会 連絡会議に参加してみませんか？

連絡会議は各プロジェクトや市内で活動しているグループの情報交換の場です。現在活動している方、これから何かやってみたいなど思っている方、どなたでもお気軽にご参加ください。

## 【編集後記】

台風、地震など自然界の異変が気になります。人間の都合ばかりを優先してきたつげが回ってきているのではないのでしょうか？私たちがもっと謙虚に自然との共生をはかっていくことが、今大切なのでは...(S)

## <会議のスケジュール>

日時	場所	活動名/内容
11月4日(木) 18:30～20:30	たづくり 301会議室	環境市民懇談会 運営会議
11月18日(木) 18:30～20:30	たづくり 301会議室	環境市民懇談会 連絡会議
11月29日(月) 13:30～17:00	市役所3階 環境部会議室	ちょうふの自然だより 編集・次号企画

ちょうふ環境市民懇談会は、調布の自然環境を保全・改善・回復していくために、「話し合いの場や、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集や発信」といった活動をパートナーシップをもとに進めていくことを目的に設立されました。ぜひ、様々な環境保全活動へ参加してください。

お問合せ先：調布市環境部環境保全課

TEL：0424-81-7086

E-mail：kanky@w2.city.chofu.tokyo.jp

発行：ちょうふ環境市民懇談会